

令和7年1月9日(木)
河北新報掲載

▼社会貢献で一ノ蔵表彰
企業の社会貢献活動を支援する日本フィランソロピー協会は8日、「第22回企業フィランソロピー大賞」に山陰合同銀行(松江市)を選んだと発表した。人口減が進む地域で、募金活動を通じた寄付や教育事業に注力してきた実績を評価した。2月28日に東京都内で贈呈式を開く。大賞に準じる「企業フィランソロピー賞」にはAOI、P・O・(アオイ)、プロ、東京、一ノ蔵(宮城県大崎市)、セイコーエプソン(長野県諏訪市)、毎日新聞社、丸紅の5社を選んだ。フィランソロピー大賞は、社会貢献活動に積極的な企業を広く発信する目的で2003年に創設された。

◆ 企業フィランソロピー賞

「ふるさとの人づくり賞」

出典:日本フィランソロピー協会

株式会社 一ノ蔵

(宮城県大崎市)

同社ウェブサイト

対象活動: ~東日本大震災復興支援プロジェクト~

未来へつなぐバトン醸造発酵で子どもたちを救おうプロジェクト
「一ノ蔵特別純米原酒3.11未来へつなぐバトン」の取り組み

<贈呈理由>

ふるさとを思い自然との共生を事業の核に据えた酒造りを営む同社は、2011年の東日本大震災時、「沿岸部の子どもたちは勉強どころではない」との社員の一言を契機に全社員で被災地を視察。子どもたちに学ぶ機会と場所を提供したいという思いから、支援活動を検討。2011年当時0歳だった子どもが20歳を迎える2031年までバトンをつなぎ続けるとの決意のもと、宮城県産米を使用した原酒『3.11未来へつなぐバトン』を製造・販売し、売上全額を公益社団法人ハタチ基金に寄付する取り組みを同年12月に立ち上げた。2023年度までの寄付額は累計約8,000万円にのぼる。

また、ハタチ基金の支援を受けた宮城県の大学生が、令和6年能登半島地震被災地で、子どもの居場所づくりに関わるという「ご恩送り」につながっている。子どもの将来を見据え、共感と希望を生み出す覚悟ある取り組みを高く評価したい。

【企業フィランソロピー大賞/企業フィランソロピー賞】

公益財団法人日本フィランソロピー協会より、企業が行う社会課題の解決や社会の健全な発展の寄与を顕彰するために、2003年(平成15年)に創設された賞

選考基準

革新性 (固定観念や既成概念にとらわれず、先駆的に行動し新たな社会価値を創造している。)

継続性 (一過性に終わることなく、真摯に活動を継続している。)

波及性 (従業員はじめステークホルダーの参画、他企業や他セクターとの連携など社内外への広がりがみられる。)

経営との関連性 (経営陣の関与・経営理念との関連性が明確である。)

経営資源の活用 (事業活動により培われた経営資源(人材・ノウハウ・技術・情報など)を活用している。)